

建築人間工学
Architectural Human Engineering

教員名	横田 隆司(よこた たかし)、飯田 匡(いいた ただす)							
教員連絡先 (研究室所在地・TEL)	吹田キャンパス S1棟8階823室または825室 電話: 06-6879-7647または06-6879-7648							
E-MAILアドレス	yokota@arch.eng.osaka-u.ac.jp iida@arch.eng.osaka-u.ac.jp							
履修対象	地球総合工学科目建築工学コース(3年次)							
単位	2	セメスター				6		
受講条件	特になし							
授業の教育目的・目標 他科目との関連	建築は人間をいれるための容器と考えられるから、建築を計画するために人間の寸法や行動法則を習得する。本講義では人間と建築空間、都市空間とのかかわりについての理解を深めることを目指す。							
学習・教育目標	A	B	C	D	E	F	G	H
	○		◎					○
授業計画・概要	テーマ	概要					学習・教育目標	
	建築人間工学とは何か(1回)	建築人間工学の概要と計画、設備などとの関係について学習する。(高度1回)					AC	
	視覚の法則とデザインの手法(2回)	視野、視認距離等の視知覚の法則性やその建築デザインへの応用、色彩計画について習得する。(高度2回)					CH	
	感性の人間工学(1回)	聴覚、臭覚等の人間の生理的、心理的側面を建築の空間計画の視点から学習する。(高度1回)					C	
	空間における知覚と行動法則(2回)	パーソナルスペース、なわばり行動とテリトリー、行動圏、生活圏等の概念を説明し、建築や都市空間とのかかわりについて学習する。(高度2回)					C	
	建築と都市における人口と密度(1回)	建築内や地域、都市レベルにおける人口や人口密度の法則性を示し、建築や都市の空間計画とのかかわりについて学習する。(高度1回)					C	
	設計と寸法の論理(2回)	寸法の単位、人体寸法、モジュール等の寸法計画の基礎を説明し、建築設計に重要な各部の基本的な寸法を取得する。(高度2回)					CH	
	行動の時間的法的規則性(2回)	行動の時刻変動、曜日変動、季節変動と建築や都市の空間計画とのかかわりについて学習する。(高度2回)					C	
	群集の行動法則(2回)	群集密度や群集の行動パターン等について述べ、空間の安全計画の手法を習得する。(高度2回)					CH	
	建築人間工学の展望(1回)	最近の建築人間工学についての課題について学習する。(高度1回)					C	
	学期末試験(1回)							
教科書	岡田光正著「建築人間工学・空間デザインの原点」、理工学社							
参考図書・文献等	岡田光正、柏原士郎他著「建築計画1[新版]」、鹿島出版会 日本建築学会編「建築設計資料集成[人間]」、丸善株式会社 日本建築学会編「建築設計資料集成[物品]」、丸善株式会社							
成績評価方法・評価基準	学期末試験で評価する。							
オフィスアワー	随時e-mailにて対応							
コメント	授業評価アンケートの結果等を参考にして講義 内容を改善します。							